

第4回 滋賀地域交通活性化協議会議事録

会議名：第4回滋賀地域交通活性化協議会

日時：2025年10月24日（金）9時30分～11時30分

場所：滋賀県危機管理センター1階 プレスセンター（会議室1）

出席者：別紙参加者名簿参照

議題：〔報告事項〕

- 1 今年度のスケジュール
- 2 県民等との対話状況について

〔報告事項〕

- 3 将来デザイン案と施策案たたき台について
- 4 未来アイデア会議県民フォーラムについて

(1) 今年度のスケジュールおよび県民等との対話状況についての質疑応答

委員： 交通税に関して、各市町長の関心は高い。3月の計画策定を目指し、取組を進められているが、1月の首長会議や、市長会、町村会など、よりよいタイミングで説明の機会を設けていただきたい。

事務局： 3月の計画策定までに説明の場を設けたい。首長会議にもエントリーしている。

委員： 計画には、税のスキームまでは記載されないと認識していたが、それでよかったか。実際はどの程度記載する予定なのか。

事務局： 税額はいくらになるかなど、具体的な税制度の設計までは記載しないことを考えているが、どの程度の規模感になるか、その根拠などは少なからず記載できればと考えている。

委員： 時間の関係で省略されたと思うが、ワークショップでの意見をもう少しご説明いただきたいかった。ワークショップに参加した身として、少し意見を述べたい。ワークショップには、実際に地域の中での移動が難しい方の参加は少なく、自分で自家用車を運転できる層が主な参加者であった。本当に移動に困っている人の意見が拾えていない印象を受けた。

ワークショップの中で「地域のことは地域でやっていくべき」との意見があった。県や市町が取り組まれている施策が知られていない印象を受けた。

地域交通の利用が少ない層に対して、各市町が既に進めている事業・施策の周知も必要ではないか。

委員： ワークショップの実施結果について、スケジュールの都合で資料全ての解説は難しいかと思うが、事務局として補足する部分はあれば説明をお願いしたい。

事務局： ワークショップでは、地域交通の価値について多くの方に様々な観点から意見をいただいた。住民間の交流が増えることで地域の活性化につながるという意見や、気候変動など環境面の観点も持つべきだという意見、自家用車を代替できる移動手段が現状想像できないといった意見があった。費用負担に関しては、持続可能な地域交通のためには、負担は必要だという意見もあれば、求める暮らしは人それぞれであり、これ以上の負担は望ましくないとの意見もあった。また、ワークショップだけでは議論が不十分であり、議論の場を広げていく必要があるのではないかとのご意見もあった。

ワークショップという限られた場での意見ではあるが、計画策定の上で非常に大きな視点であると認識している。

委員： 各市町村が様々な取組を行っているが住民に認知されていない印象をうけた。
未来を見据えて行動していくと同時に、現在の取組を周知する必要性を強く感じた。

(2) 将来デザイン案と施策案たたき台についての質疑応答

委員： たたき台の p.7 において、維持にかかる施策は、「原則、既存の財源の枠組みの中で実施」とあるが、市町として県に要望していることは、これまで市町が実施してきた施策への支援、スケールアップへの支援である。今の記載では、スケールアップが対象として見込めないのではないか。

「強化していく」というような言葉を追加するなど、対象となるように検討をお願いしたい。

委員： p.7 には「維持にかかる施策」と「充実にかかる施策」に分けられているが、現時点において市町や交通事業者は交通網の維持に大変苦勞している。今まで通りで維持ができるならよいが、既に縮小が相次いでいる状況であり、「維持」と「充実」に単純に分けるのではなく、その境界部分についてはもう少し丁寧に説明すべきではないか。

事務局： 維持に苦勞されていることは認識しており、「予算の範囲」とせず「枠組み」と表現している。市町への支援の強化は、県としても必要だと感じている。しかしながら、今あるもののために新たな負担を求めることは難しいと考えており、「維持」と「充実」に分けて整理している。

委員： 資料 3-4 に事業案の一覧があるが、既存の取組に加え、今後、新たに充実を図っていく取組が並んでいる。より効果的な交通事業を考えるうえで、今後は、役目を終えた事業を廃止することや、既存同士・既存と新規同士を組み合わせるなど、事業の整理統合が進むのではないか。既存と新規、維持と充実は、厳密に分けられるものではなく、今後はバリエーションがより豊かになっていくはず。

予算についても、既存の財源でどこまで出来るかを考えることも必要だと思うが、既存の取組に新たな取組を組み合わせることで新たな財源を充てるなど、真に必要な事業には、新規の財源も組み合わせるなど、もっと柔軟に考える必要があるのではないか。

また、施策 15 の「未来に向けた新たなまちづくり」については、他の 14 の施策と同列に扱うべきではないのではないか。施策というより、まちづくりというより大きな「政策」の枠組みであるように思う。交通はあくまでまちづくりに含まれる手段であり、施策 1～14 を包括するものとして再整理されてはどうか。

事務局： 事業を機械的に分けることが難しいという意見はごもっともであり、区分の仕方等については、いただいた意見を念頭に置きながら再度検討したい。

委員： 事業リストの中身全てをこの場で議論できないとしても、少なくとも施策 7 の事業 24（リニア中央新幹線の開通を見据えた三重県との連絡強化の検討）、25（びわこ京阪奈線（仮称）鉄道構想の検討）は議論自体が現時点では不可能な話だが、このような施策を我々はどう評価すればいいのか。今後どのように評価していく予定なのか。

事務局： 現時点で示している事業内容はあくまで概要であり、具体の事業内容については、今後どのような取組であれば実施可能なのか市町・事業者等各施策の関係者に対し納得していただける形で整理していく。

委員： 計画に記載した事業内容にとらわれ、時勢に沿った「本当に必要な施策」が実施できなければ本末

転倒。現時点案との記載に留め置き、遊びを残しておいた方がいいのではないか。

委員： DX・GXなどの専門用語については、県民が理解できるように注釈など語句の説明は設けるべき。また、GXは極めて重要な観点であり、なぜGXに取り組むのかという全体方針を踏まえ、CO2排出量への言及にとどまらずカーボンニュートラルとの関連についてももう少し記載してはどうか。自家用車の過度な利用は外部不経済をもたらすこと、それを解消するためにも地域交通は重要であるというように、まちづくりや生活面だけでなく、環境面や経済面からも車社会からの転換が必要であることをしっかり記載するべきではないか。

事務局： ご指摘いただいた点について、施策を進める論拠の一つとして記載を検討したい。

委員： 資料3-2の1枚目（地域区分毎に「目指す暮らし」と「抱える課題」）の地域課題の中に「交通渋滞」とある。県民も当然、渋滞を課題として認知していると思う。しかしワークショップの中では、地域交通の充実はドライバーの方にも渋滞の緩和などの便益があることが話題に上らず、そもそもそのことにまで想像が及んでいない印象を受けた。資料3-2の将来デザイン案など、どこかに便益を記載することで、渋滞緩和の便益に気づいてもらえるのではないか。渋滞緩和以外にも、自家用車が3台から2台になり金銭的負担が減るメリット、CO2排出量の削減、災害時に様々な移動の選択肢が持てることなど、多方面に便益があることを周知する必要があるのではないか。

委員： p.7（2-3 施策毎の財源）の最後で、財源については、慎重な表現がされているが、「実施」でなくあくまでも「検討」である以上、税の検討だともっと強く打ち出しているのではないか。

事務局： 各委員のご指摘を参考に、記載・表現についてはさらに検討していきたい。

委員： 本日議論した点や、具体の事業について、再度、協議会の場で共有し、検討する予定はあるのか。今回の意見をもとに修正した案をそのままパブリックコメントにかける予定か。

事務局： 本日の協議会のように会議の開催という形は難しいと考えているが、計画案については、ある程度固まった時点で、協議会・幹事会などに共有し、ご意見を伺ってからパブリックコメントにかける予定。

（3）未来アイデア会議県民フォーラムについての質疑応答

委員： 無作為抽出で参加依頼を送付した方がどの程度参加してくれるかは少し気掛かり。

（4）その他

委員： 資料3-1の計画目次案は確定という認識でよかったか。

事務局： 骨子案から引き継いだものであり、大きく変わることはない。

委員： 計画策定プロセスにおいて、ワークショップやフォーラム、アンケートなど住民を巻き込んだ取組を実施してきたことは非常に大事なこと。だからこそ、誰が計画を実施するのかという主体の記載が必要。過年度、今年度と積み上げてきた過程と、参加者の意見があるのだから、県民が計画の主体であることを計画の中にも記載すべき考える。